2002 年度

早稲田大学大学院文学研究科　博士論文

社会学専攻

（題目）

沖縄イメージの誕生

―沖縄海洋博と観光リゾート化のプロセス―

多田　治

目　次

序章　＜沖縄＞をめぐる新しい研究視点の構築　1
（1）基地と観光のパラレルワールド
（2）沖縄研究と沖縄イメージの研究
（3）＜青い海＞のビジュアルな沖縄：大学生の＜沖縄＞表象から
（4）＜メディア－空間＞の密接な関係と、主観的地理の遠近感覚
（5）社会学におけるイメージ研究の系譜：イメージの現実構築力
（6）「イメージに対する実態の優位」の発想を超えて、関係性の思考へ
（7）本論の基本的な視点
（8）＜沖縄＞イメージを創り出した文化装置：沖縄海洋博
（9）本論の若干の留意点
（10）本論の章構成

第１部　沖縄振興開発計画のなかの海洋博

第１章　海洋博と沖縄振興開発の歴史的前提
－60 年代～70 年代初頭における＜国土＞と＜国民＞の再編－　14
はじめに　本章の目的と意義
第１節　全国総合開発計画のまなざしと力学
（1）＜国土開発＞の誕生：国土と国民のパラレルな統合
（2）新全総と「列島改造」
第２節　東京オリンピックと大阪万博における＜開発＞の諸相
（1）東京・大阪のお祭り開発戦略：祝祭性と実質性の節合
（2）＜速度＞の開発：社会的事実としての＜交通＞
（3）堺屋太一の思想：イベントによる社会・文化の開発
第３節　観光のまなざしとビジュアル文化の台頭
（1）海外旅行ブーム：世界を＜見る＞欲望の開発
（2）万博の＜世界＞化／世界の＜万博＞化
（3）「ディスカバー・ジャパン」とビジュアル・メディアの連動
第４節　３つのエピステーメーと巨大イベントの効用

第２章　沖縄振興開発計画と海洋博　31
第１節　沖縄をめぐる開発のエピステーメーの登場
（1）「国益」と「県益」の対立
（2）沖縄経済振興懇談会と大阪万博へのまなざし
（3）総合的な開発装置としての海洋博
（4）観光開発・インフラ整備・海洋博
第２節　開発資源としての＜沖縄＞の発見

（1）長期経済開発計画における＜沖縄＞の自己へのまなざし
（2）新全総のなかの＜沖縄＞
（3）沖縄振興開発計画における全体性の確保：＜知＞の権力装置
（4）沖振計における観光と海洋博の位置づけ：＜亜熱帯＞のテーマパーク
第３節　海洋博関連公共事業：速度と移動のエピステーメー
（1）道路による空間的リアリティの再編
（2）＜亜熱帯＞と＜海＞のディスプレイ装置としての国道58号線

第２部　沖縄海洋博の内在的分析

第３章　＜海＞をめぐるイメージ・ポリティックス　59
第１節　政治的祝祭としての沖縄海洋博
（1）万国博覧会の歴史のなかの沖縄海洋博：実質性と祝祭性
（2）二つの祝祭性の節合：＜海＞の地政学
第２節　テーマと基本理念：よりソフトな＜開発＞イメージの創出
（1）テーマ「海―その望ましい未来」：誰にとって？
（2）基本理念における４つの意識類型の抽出
（3）４つの意識が巧妙にからまり合うディスクール、そして＜沖縄＞

第４章　観光リゾートとしての＜沖縄＞イメージの誕生　71
第３節　海洋博会場の選定：＜沖縄＞の美的リアリティの展開
（1）＜美＞をめぐる社会学的前提
（2）＜沖縄＞をめぐる美的再帰性
（3）沖縄の＜海＞の活用：＜自然資本→文化資本→経済資本・政治資本＞
（4）複合化の戦略：パラレルワールドとしての美的リアリティ
第４節　会場／海上のランドスケープ：伊江島をめぐる知覚様式の変容
（1）本部半島の「冒険」：沖縄のリゾート化を方向づけた文化装置
（2）オブジェ化した伊江島：礼拝的価値から展示的価値へ
（3）シヴェルブシュの視点：パノラマ的知覚
（4）　写真のまなざし：抽象化されたリアリティ
（5）　「見る－見られる」関係：＜観客／風景＞の分化と脱-分化
第５節　中間考察：監視とスペクタクル
（1）　スペクタクルの権力：非言説的／フィギュア的な肯定
（2）　会場構成：＜自然－人間－テクノロジー－空間－未来＞の包括的な管理
（3）　沖縄の空間開発のモデルとしての海洋博
（4）　パノラマとパノプティコン：全視全能的なまなざしの空間

第５章　ビジュアル・メディアとしての沖縄海洋博　92
第６節　＜海＞のサブ・カテゴリー：海洋博のゾーニングと沖縄のゾーニング

（1）沖縄各地の＜海＞のテーマ化と個性化
（2）海洋博会場のなかのサブ・テーマ
（3）本島中部に割り当てられた「国際性」の政治的意味
第７節　政府出展施設の検討
（1）アクアポリス：可視性を義務づけられたシンボル
（2）環境創出型テクノロジーによる包括的管理
（3）＜海＞をめぐるテクノロジーとファンタジーの節合
（4）海洋牧場と海洋生物園：海中世界のコントロールとスペクタクル化
（5）海浜公園：造園技術による＜亜熱帯＞イメージの演出
（6）海洋文化館：太平洋オリエンタリズムのなかの＜日本＞
（7）＜文化＞の政治的効用
第８節　外国出展・民間出展
（1）外国出展施設：＜国際性＞のディスプレイ装置
（2）民間出展施設：グループ参加の背景
（3）＜海＞のビジュアル・メディア：イメージと空間の相互浸透
第９節　沖縄館の検討：＜沖縄らしさ＞の演出
（1）テーマとしての＜沖縄＞：ローカリティの脱埋め込みと再埋め込み
（2）沖縄文化人と沖縄館：「見せる文化」の確立
（3）テーマと基本理念：＜沖縄＞の自己定義
（4）展示内容：沖縄館による＜歴史＞の構築
（5）伝統芸能の再埋め込み
第 10 節　＜海＞＜亜熱帯＞＜文化＞――沖縄イメージの三種の神器

第３部　海洋博と沖縄社会の変容

第６章　復帰後の沖縄社会と海洋博世論　122
序　リアリティの二重性：海洋博会場の内部と外部
第１節　1972 年 5～12 月：世替わりの不安の中の、淡々とした計画の進行
第２節　73 年 1～10 月：海洋博世論の騒乱
（1）海洋博世論の誕生
（2）「メリット－デメリット」図式の台頭：目的合理性の共有
（3）海洋博アノミー
(4)沖縄の＜文化＞＜自然＞の喪失と再発見:対抗言説としてのオーセンティック
第３節　73 年 11～12 月：オイルショック後の延期と沈静化する世論
第４節　74 年 1 月～75 年 3 月：ポスト海洋博への不安と病理
（1）先取りされた未来への不安
（2）教育・非行問題との関連づけ：病理化する海洋博
第５節　75 年 4～7 月：開会式をめぐる騒動
第６節　75 年 8 月～76 年 1 月：期待はずれの海洋博不況

第７節　復帰後沖縄社会のパラメーターとしての海洋博

第７章　海洋博から沖縄キャンペーンへ
―沖縄の観光リゾート化のプロセス―　145
第１節　沖縄観光の通史的概観：「観光立県」の推移
第２節　復帰前・60 年代の沖縄観光ブーム
（1）沖縄パックツアーの誕生
（2）戦跡参拝と舶来品ショッピングの結合
第３節　沖縄をめぐる観光のエピステーメーの変容
（1）69年：「自然発生的」への懸念と、観光開発への意志
（2）＜海＞＜亜熱帯＞＜平和＞のテーマ化
（3）70年：海洋博への包摂と、本土資本の目覚め
第４節　海洋博経由・本土企業の沖縄進出
（1）総合商社グループの登場
（2）三井物産による本部半島と長期ビジョンの提示
（3）公共性の活用と多元的ヘゲモニー
第５節　本部半島リゾートゾーンの難航
（1）第３セクター方式の浮上
（2）余暇開発センターの＜自然＞コントロール志向
（3）革新与党の反対と本土企業への不信
（4）跡利用問題の迷走
第６節　ポスト海洋博から沖縄キャンペーンへ
（1）観光沖縄へ向かう、聖なる祭りとしての海洋博
（2）反動不況から立ち上がった沖縄キャンペーン
（3）＜県民＞の主体化と歴史・文化の活用
（4）沖縄版ディスカバー・ジャパンとしての「ファンタジア沖縄」
（5）イメージ準拠による＜県民＞の構築
（6）キャンペーン的リアリティの浸透
（7）航空会社の沖縄キャンペーン：＜青い海、白い砂浜、ビキニの女性＞の意味

結論　沖縄イメージによるリアリティの構築　178
（1）３つのエピステーメーと海洋博
（2）観光リゾート化と沖縄イメージ
（3）今後の展望

付録１　琉球政府　長期経済開発計画　「本県の特性」　187

付録２　新全国総合開発計画　第四部　沖縄開発の基本構想　189

付録３　沖縄振興開発計画（抜粋） 192

主要参考文献 197

あとがき 205